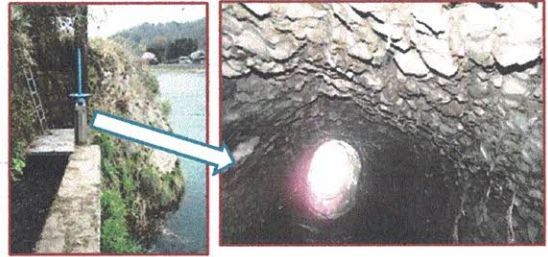


# 木知原の今昔!

2号: 4・12・8

400年近く現役

## 素掘りの岩崎隧道



**岩** 崎井水の工事は大垣藩主(戸田氏鉄)の肝いりで正保元年(西暦 1644 年)に始められたことは前号の通りである。最大の難関は大岩にノミとカナヅチで隧道を掘ることであった。危険な作業のために安全を願って**神明神宮**を祀った記録が残されている。

- ④ 隧道は50m程で中間に掘られていた堅穴は道路拡張で取り壊されが、取水口部分は当時のままの姿で400年近く現役である。一度覗いてみると難工事が一目瞭然。
- ④ 岩崎井水は、下岩崎付近で「北溝・中溝・井川」の三路に分流していることはよく知られているが、二カ所で長谷川を渡り門洞以外の水田を潤し倉野谷と合流して根尾川へ流れ出ていることは余り知られていないようである。岩崎井水は村の暮らしすべての大動脈であった。

## 神明神宮 見つかる!!!!

**神** 明神宮がなぜか延宝5年(1677年)の絵図に見られないので“流されたのだろう”と思っていたが大橋工事で約**300年ぶり**に発見されたのだからまさに奇跡である。石頭部分の「木」が欠けているが間違いなく「木知原神宮」であり石碑の社であったことも判明したことに驚き!



《江戸時代の絵図》

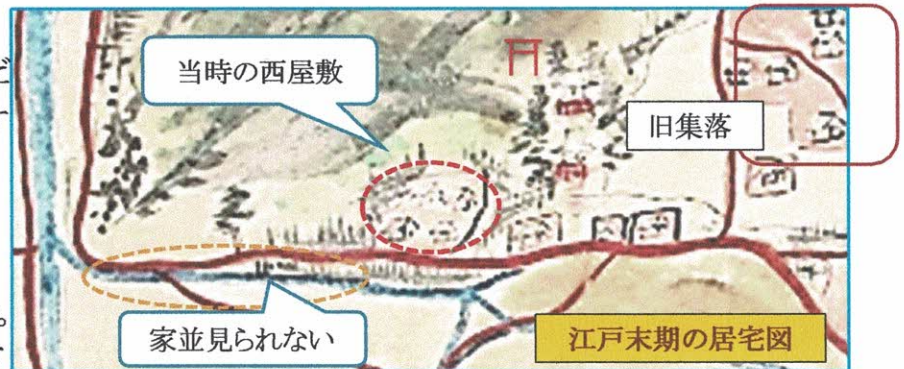
《発見の石碑》

## 井水と居宅

**北** 溝と言えどカワドが並んだ西屋敷の家並を思い出すが、それは井水完成から200年以上も後のことである。

右の江戸末期絵図にも西や中屋敷の居宅はまだ見られない。

④ 明治になって平地に住む許可



が出てから一気に旧集落から西屋敷・中屋敷・川東へと移住が始まったようである。

コメ中心の江戸時代、どれ程水田(稲作)を大切にしてきたかが伺われる一例と思う。

- ♥ 「ムツキ等の汚れ物の洗濯は北溝×中溝○」といった約束事が簡易水道完成の昭和35年頃まで生きていたことはなつかしい思い出かな? 生活共同体の素敵な文化だったと思います。

**門** 洞井水は暴れ谷川を改修し門洞・村東・平尻への用水路である。

門洞井水には水流の勢いや落差を利用して2箇所**水車小屋**が作られ脱穀や精米など暮らしには欠かせない用水路であった。(谷川から分水し集荷場東にもあった)



- ♥ 公民館掲揚塔の元に水車小屋のテコ石が据えられている。ムラの宝物であるが**ご存じ?**
- ♥ 水車小屋の見張り番は飛び出た米を臼に戻す作業を一日中繰り返す退屈な手伝いでした。

横山